

まちづくりに関する市民意向調査 中間集計速報

■ 那須烏山市のまちづくりに関する		
市民意向調査の概要	——	1
■ 那須烏山市のまちづくりに関する		
中学生アンケートの概要	——	1
■ 市民意向調査・中学生アンケート		
回答対象の属性	——	2
■ 市民意向調査・中学生アンケート 結果の概要		
1 那須烏山市の将来のまちづくり	—————	3
2 那須烏山市のまちづくりに対する評価	——	9
3 那須烏山市の都市・地域づくりのあり方	—	13

那 須 烏 山 市

■ 那須烏山市のまちづくりに関する市民意向調査の概要

1 市民意向調査の目的

まちづくりの将来設計図ともなる「総合計画」「土地利用計画」「都市計画マスタープラン」などを検討する際の基礎的資料とする。

2 市民意向調査の方法

- 1) 調査地域：那須烏山市全域
- 2) 調査対象：16歳以上の男女個人
- 3) 標本数：3,000票
- 4) 抽出方法：那須烏山市在住の16歳以上の男女から無作為抽出
- 5) 調査方法：メール便による配布・郵送による回収
- 6) 調査期間：平成18年6月

3 回収状況

- 1) 回収数：1,181票（平成18年7月7日回収締切分）
- 2) 回収率：39.4%

■ 那須烏山市のまちづくりに関する中学生アンケートの概要

1 中学生アンケートの目的

将来の主役となる中学生の意見・希望などを把握し「総合計画」などの新たな計画を検討する際の基礎的資料とする。

2 中学生アンケートの方法

- 1) 調査対象：那須烏山市内の中学3年生全員
- 2) 標本数：337票
- 3) 調査方法：“総合的な学習の時間”等における記入
- 4) 調査期間：平成18年6月

3 回収状況

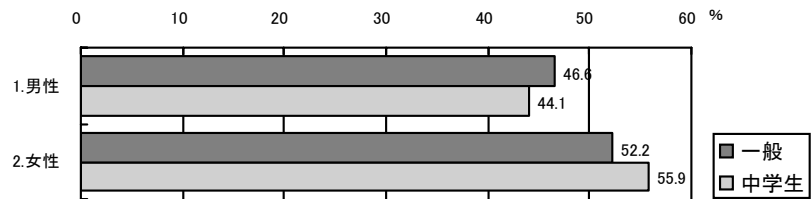
- 1) 回収数：322票
- 2) 回収率：95.5%

※ 集計について

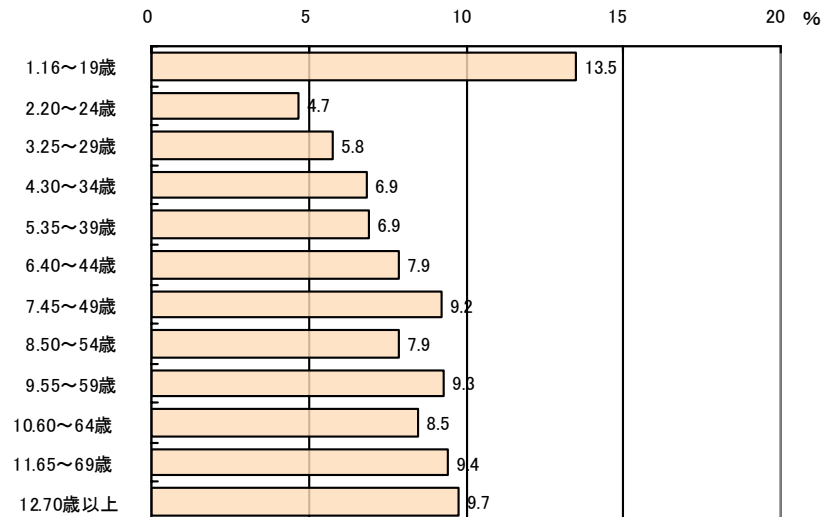
- ①集計は小数点第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示した。四捨五入したため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- ②回答が2つ以上ある場合は表内の構成比の合計が100%を超え、無回答分の構成比を含めば、回答が2つの場合は200%、3つの場合は300%となるよう表示している。例えば、回答者比率が30%とある場合は、構成比の合計が100%の時と同様、全体1,181人の30%の人がその答えを挙げたと読むことができる。
- ③回答設定数を上回って回答した場合には無効としている。

■ 市民意向調査・中学生アンケート 回答対象の属性

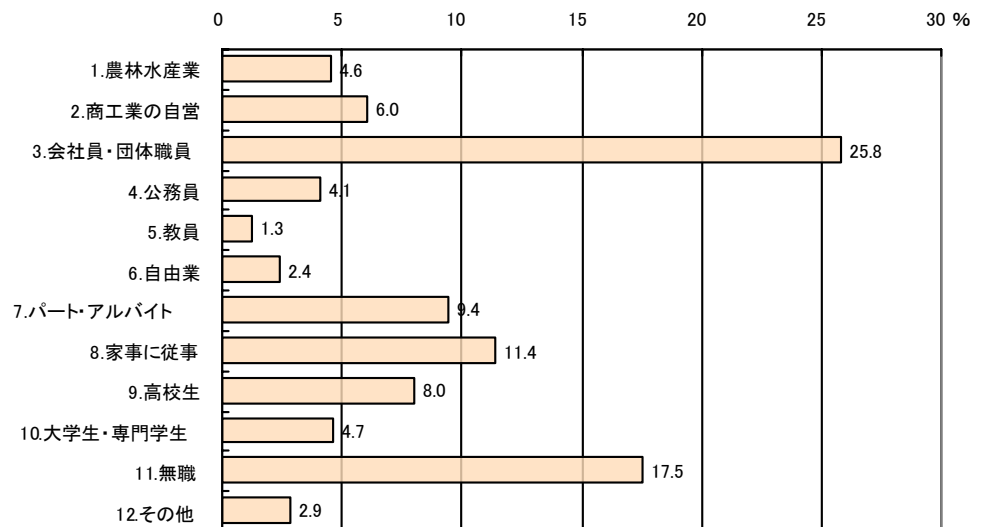
1 性別



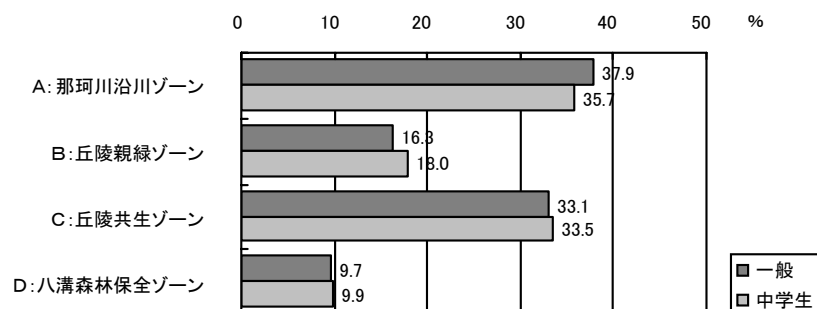
2 年齢



3 職業



4 居住地区



■ 市民意向調査・中学生アンケート 結果の概要

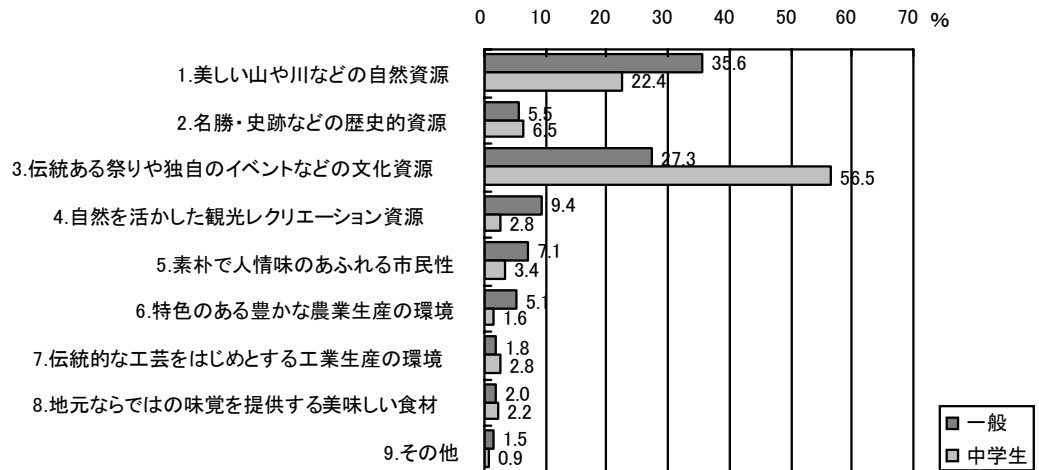
1 那須烏山市の将来のまちづくり

[誇れるもの・特色]

○ 「美しい山や川などの自然資源」「伝統ある祭りや独自のイベント」に誇りを感じている。

(結果概要)

- ・若い世代に伝統や独自性をより大切にする姿勢
- ・中高年齢層に美しい自然資源を重視する意識
- ・将来に向けて自然を活かした観光レクリエーション資源に期待



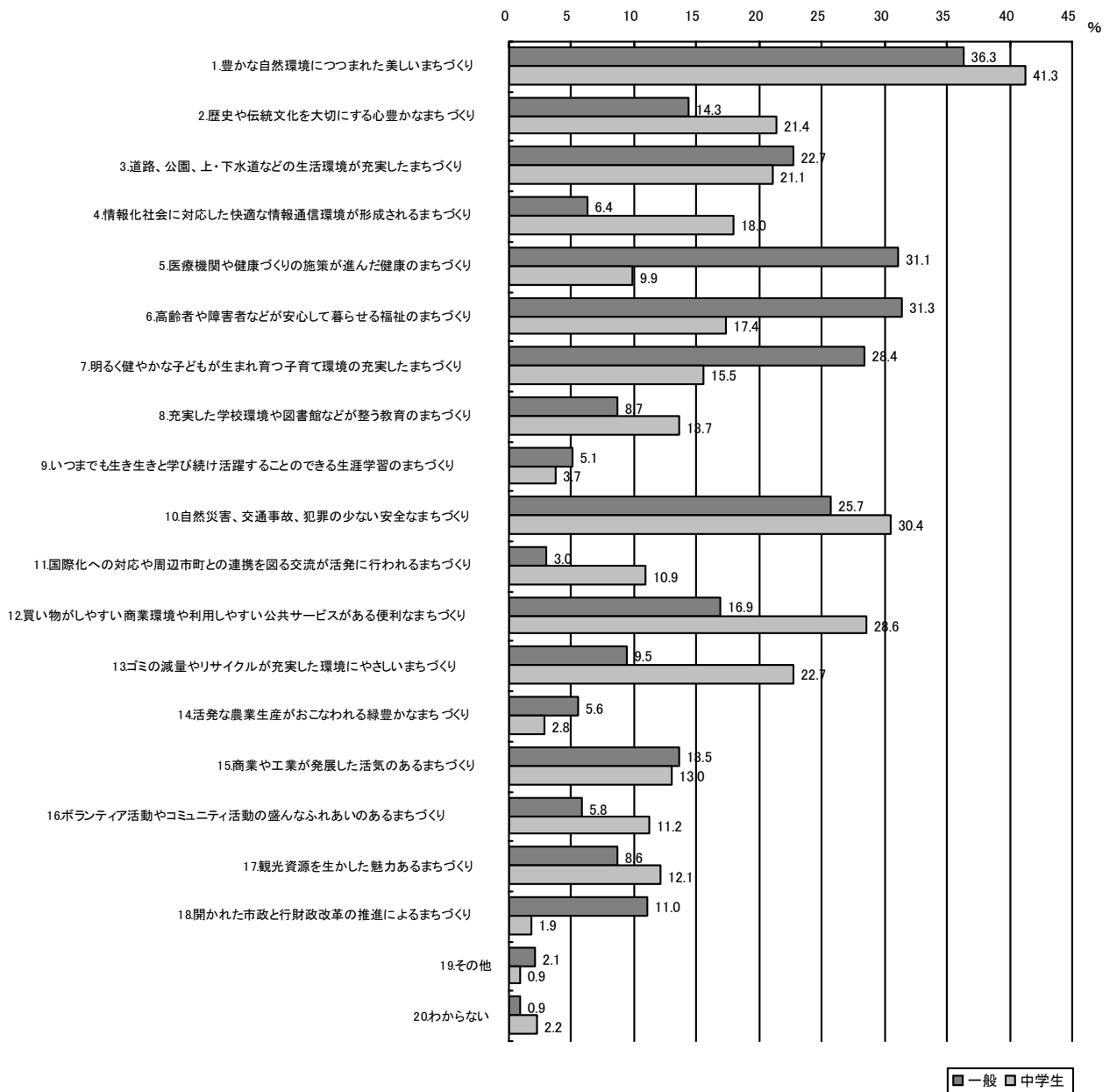
		1位	割合 (%)	2位	割合 (%)	3位	割合 (%)
総数 (市民意向)		1. 美しい山や川などの自然資源	35.6	3. 伝統ある祭りや独自のイベント	27.3	4. 自然を活かした観光レクリエーション資源	9.4
年齢別	10代 (中学生)	3. 伝統ある祭りや独自のイベント	56.5	1. 美しい山や川などの自然資源	22.4	2. 名勝・歴史などの歴史的資源	6.5
	10代後半	3. 伝統ある祭りや独自のイベント	44.0	1. 美しい山や川などの自然資源	34.6	4. 自然を活かした観光レクリエーション資源 5. 素朴で人情味のある市民性	5.0
	20代	3. 伝統ある祭りや独自のイベント	37.4	1. 美しい山や川などの自然資源	26.8	4. 自然を活かした観光レクリエーション資源	11.4
	30代	1. 美しい山や川などの自然資源 3. 伝統ある祭りや独自のイベント	34.4	-	-	4. 自然を活かした観光レクリエーション資源	10.4
	40代	1. 美しい山や川などの自然資源	39.6	3. 伝統ある祭りや独自のイベント	23.3	4. 自然を活かした観光レクリエーション資源	10.4
	50代	1. 美しい山や川などの自然資源	40.4	3. 伝統ある祭りや独自のイベント	18.7	4. 自然を活かした観光レクリエーション資源	13.3
	60代	1. 美しい山や川などの自然資源	35.1	3. 伝統ある祭りや独自のイベント	21.8	5. 素朴で人情味のある市民性	11.4
	70代以上	1. 美しい山や川などの自然資源	34.8	3. 伝統ある祭りや独自のイベント	15.7	6. 特色のある豊かな農業生産の環境	13.9
地域別	那珂川沿川	1. 美しい山や川などの自然資源	31.5	3. 伝統ある祭りや独自のイベント	31.3	4. 自然を活かした観光レクリエーション資源	10.3
	丘陵親緑	1. 美しい山や川などの自然資源	39.9	3. 伝統ある祭りや独自のイベント	21.8	4. 自然を活かした観光レクリエーション資源 5. 素朴で人情味のある市民性	9.3
	丘陵共生	1. 美しい山や川などの自然資源	37.3	3. 伝統ある祭りや独自のイベント	25.1	4. 自然を活かした観光レクリエーション資源	10.0
	八溝森林保全	1. 美しい山や川などの自然資源	33.0	3. 伝統ある祭りや独自のイベント	29.6	5. 素朴で人情味のある市民性	9.6

[期待されるまちづくり]

○ 豊かな自然環境につつまれた、誰もが安心して健康に暮らせるまちづくりが望まれている。

(結果概要)

- ・子育て世代に期待される“明るく健やかな子どもが生まれ育つ子育て環境の充実”
- ・“誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり”を望む高齢者層
- ・“買い物の利便性の向上”を求める若い世代
- ・那珂川沿川ゾーンにおいて“医療機関や健康づくりの施策”を重視、丘陵親緑・丘陵共生・八溝森林保全ゾーンにおいて“豊かな自然環境を持つ美しいまち”を重視



	1位	割合 (%)	2位	割合 (%)	3位	割合 (%)	
総数（市民意向）	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	36.3	6. 高齢者や障害者などが安心して暮らせ	31.3	5. 医療機関や健康づくりの施策が進んだ	31.1	
年齢別	10代（中学生）	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	41.3	10. 自然災害、交通事故、犯罪の少ないま	30.4	12. 買い物がしやすい商業環境や利用しやすい	28.6
	10代後半	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	42.1	6. 高齢者や障害者などが安心して暮らせ	30.8	12. 買い物がしやすい商業環境や利用しやすい	28.3
	20代	7. 明るく健やかな子どもが生まれ育つ子	39.8	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	30.9	5. 医療機関や健康づくりの施策が進んだ	28.5
	30代	7. 明るく健やかな子どもが生まれ育つ子	41.7	5. 医療機関や健康づくりの施策が進んだ	35.6	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	32.5
	40代	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	34.2	6. 高齢者や障害者などが安心して暮らせ 7. 明るく健やかな子どもが生まれ育つ子	30.7	-	-
	50代	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	41.4	5. 医療機関や健康づくりの施策が進んだ	38.9	6. 高齢者や障害者などが安心して暮らせ	29.6
	60代	6. 高齢者や障害者などが安心して暮らせ	39.3	5. 医療機関や健康づくりの施策が進んだ	36.5	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	34.1
	70代以上	6. 高齢者や障害者などが安心して暮らせ	45.2	10. 自然災害、交通事故、犯罪の少ないま	42.6	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	40.0
地域別	那珂川沿川	5. 医療機関や健康づくりの施策が進んだ	33.0	6. 高齢者や障害者などが安心して暮らせ	31.7	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	31.5
	丘陵親緑	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	37.8	6. 高齢者や障害者などが安心して暮らせ	32.6	10. 自然災害、交通事故、犯罪の少ないま	32.1
	丘陵共生	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	41.2	6. 高齢者や障害者などが安心して暮らせ	32.2	5. 医療機関や健康づくりの施策が進んだ	28.1
	八溝森林保全	1. 豊かな自然環境につつまれた美しいま	37.4	5. 医療機関や健康づくりの施策が進んだ	33.9	6. 高齢者や障害者などが安心して暮らせ	25.2

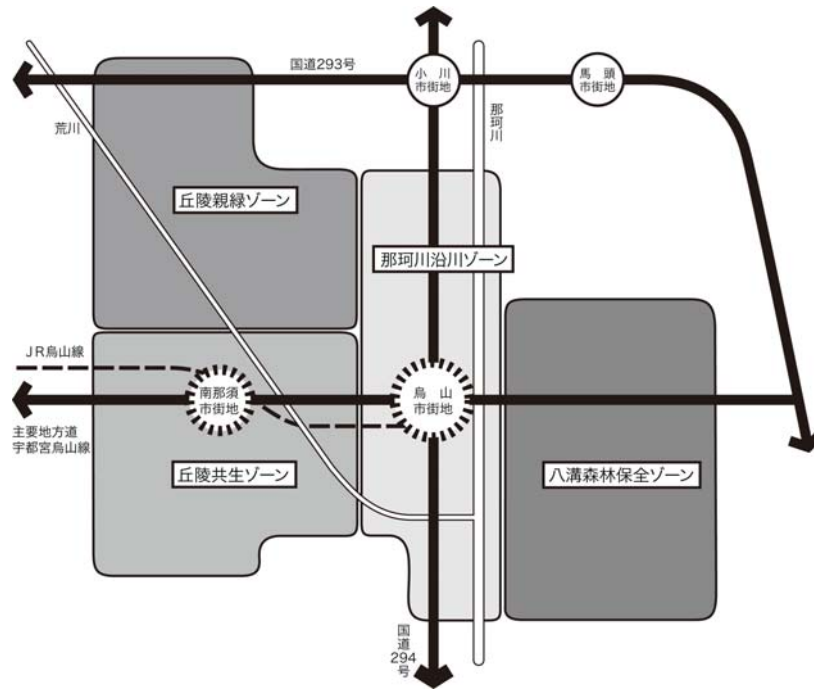
[土地利用の方向性]

○ 約 8 割の人が、那須烏山市の将来の土地利用の方向性について“ふさわしい”と感じている。

(結果概要)

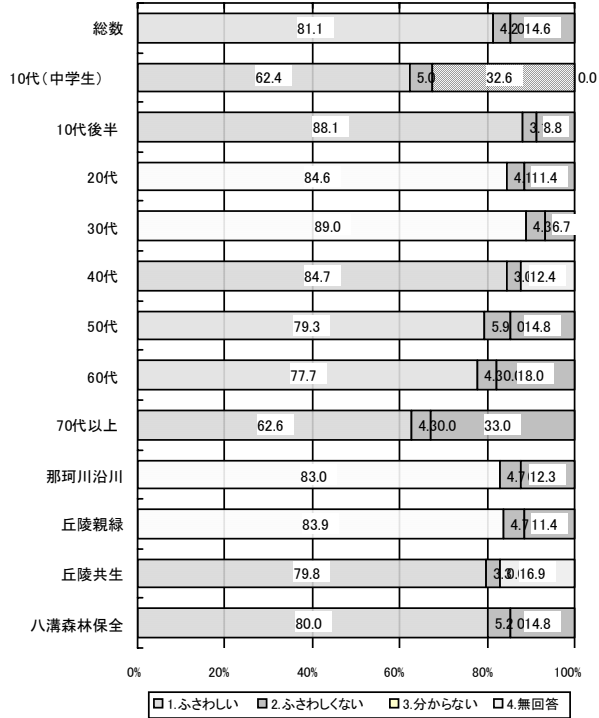
- ・約 8 割が「那珂川沿川ゾーン」「丘陵親緑ゾーン」「丘陵共生ゾーン」「八溝森林保全ゾーン」全ての土地利用イメージを妥当と判断

【参考：「新市建設計画」において示された将来の土地利用構想】

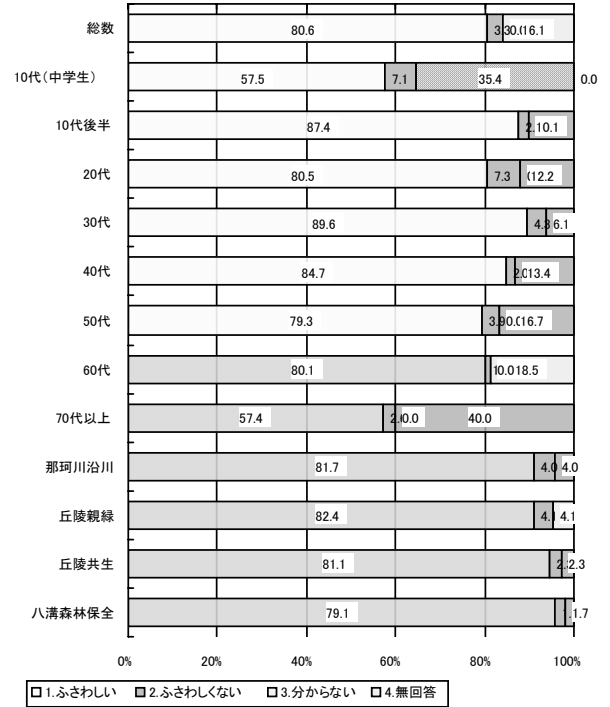


ゾーン名	土地利用の方向性
那珂川沿川ゾーン	国道 294 号と那珂川を中心に、広域行政施設や公共公益施設が集積する烏山市街地・豊かな田園・集落が広がるゾーンであり、生活・行政などの都市機能を担う水辺の地域として位置づけます。
丘陵親緑ゾーン	ふるさとの原風景である谷津田と平地林が広がるゾーンであり、自然環境の保全を基本に、観光・歴史遺産・レクリエーション機能等を活用した親緑の地域として位置づけます。
丘陵共生ゾーン	主要地方道宇都宮烏山線や J R 烏山線等が走り、多くの公共公益機能が集積する南那須市街地や宅地化の進行するゾーンであり、自然と共生した定住や企業立地を促進する地域として位置づけます。
八溝森林保全ゾーン	福島・茨城・栃木の 3 県に広がる八溝山地の一部にあたるゾーンであり、自然環境の保全を基本に、常陸大宮市などの奥久慈方面との観光的な連携を促進する地域として位置づけます。

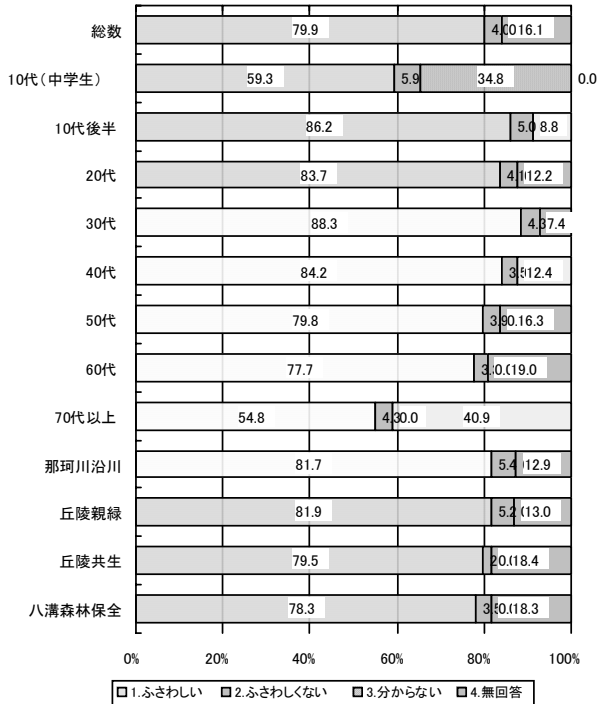
那珂川沿川ゾーン



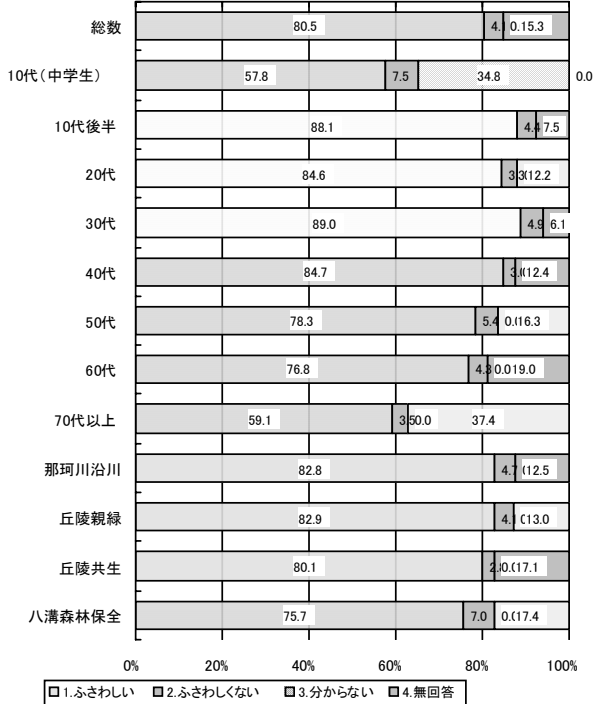
丘陵共生ゾーン



丘陵親緑ゾーン



八溝森林保全ゾーン

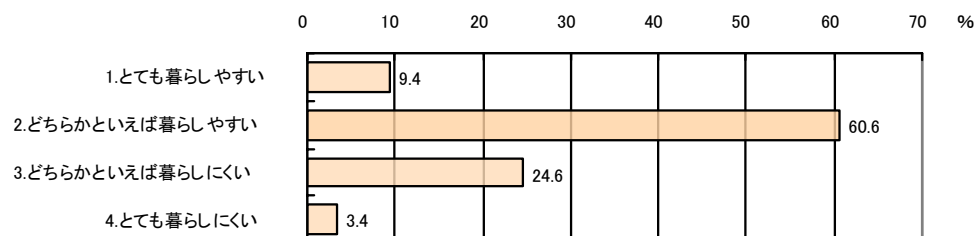


[暮らしやすさ]

○約7割の人が那須烏山市は暮らしやすいと感じている。

(結果概要)

- ・年齢別・地域別の全般にわたり“どちらかといえば暮らしやすい”が約6割と主流
- ・年齢別・地域別の全般にわたり約4人に1人が“どちらかといえば暮らしにくい”と回答



		1位	割合 (%)	2位	割合 (%)	3位	割合 (%)
総数 (市民意向)		2. どちらかといえば暮らしやすい	60.6	3. どちらかといえば暮らしにくい	24.6	1. とても暮らしやすい	9.4
年齢別	10代後半	2. どちらかといえば暮らしやすい	55.3	3. どちらかといえば暮らしにくい	25.2	1. とても暮らしやすい	14.5
	20代	2. どちらかといえば暮らしやすい	59.3	3. どちらかといえば暮らしにくい	27.6	1. とても暮らしやすい	7.3
	30代	2. どちらかといえば暮らしやすい	58.9	3. どちらかといえば暮らしにくい	27.0	1. とても暮らしやすい	6.7
	40代	2. どちらかといえば暮らしやすい	57.9	3. どちらかといえば暮らしにくい	26.2	1. とても暮らしやすい	8.9
	50代	2. どちらかといえば暮らしやすい	59.1	3. どちらかといえば暮らしにくい	27.6	1. とても暮らしやすい	10.8
	60代	2. どちらかといえば暮らしやすい	71.6	3. どちらかといえば暮らしにくい	16.1	1. とても暮らしやすい	8.1
	70代以上	2. どちらかといえば暮らしやすい	61.7	3. どちらかといえば暮らしにくい	24.3	1. とても暮らしやすい	9.6
地域別	那珂川沿川	2. どちらかといえば暮らしやすい	61.4	3. どちらかといえば暮らしにくい	25.4	1. とても暮らしやすい	9.2
	丘陵靑緑	2. どちらかといえば暮らしやすい	61.7	3. どちらかといえば暮らしにくい	29.0	1. とても暮らしやすい	4.7
	丘陵共生	2. どちらかといえば暮らしやすい	60.1	3. どちらかといえば暮らしにくい	21.2	1. とても暮らしやすい	13.0
	八溝森林保全	2. どちらかといえば暮らしやすい	62.6	3. どちらかといえば暮らしにくい	22.6	1. とても暮らしやすい 4. とても暮らしにくい	7.0

2 那須烏山市のまちづくりに対する評価

[各施策・事業の評価]

(全体)

○ 全体的に各施策の納得度は低く（平均：-0.33）重要度は高く（平均：0.78）なっている。

- “暮らしやすい” 回答者のみ -

○ 納得度平均が“全体平均”より高く、重要度平均が“全体平均”より低くなっている。

- “暮らしにくい” 回答者のみ -

○ 納得度平均が“全体平均”より低く、重要度平均が“全体平均”より高くなっている。

(結果概要：全体)

【納得度：高、重要度：高】… 継続的な取り組みに期待

“安全な水の安定した供給” “適切なごみ収集や処理” “消防・防災体制”

【納得度：低、重要度：高】… 今後のまちづくりにおける重要な課題

“自家用車に頼らない移動手段” “子育て・仕事の両立の支援体制” “安心して子どもを
生み育てられる環境” “障害をもった人の暮らしやすい環境”

【重要度：高】

“救急医療” “犯罪に巻き込まれる心配の少ない環境”

【納得度：低】

“商店街再生のための取り組み”

【納得度：高、重要度：低】

“地域の歴史・伝統・文化の継承・活用”

【納得度：低、重要度：低】

“市民自らによる国際交流”

- “暮らしやすい” “暮らしにくい”：評価の比較 -

・両者とも各施策・事業の納得度と重要度の相関関係については全体とほぼ同様の傾向

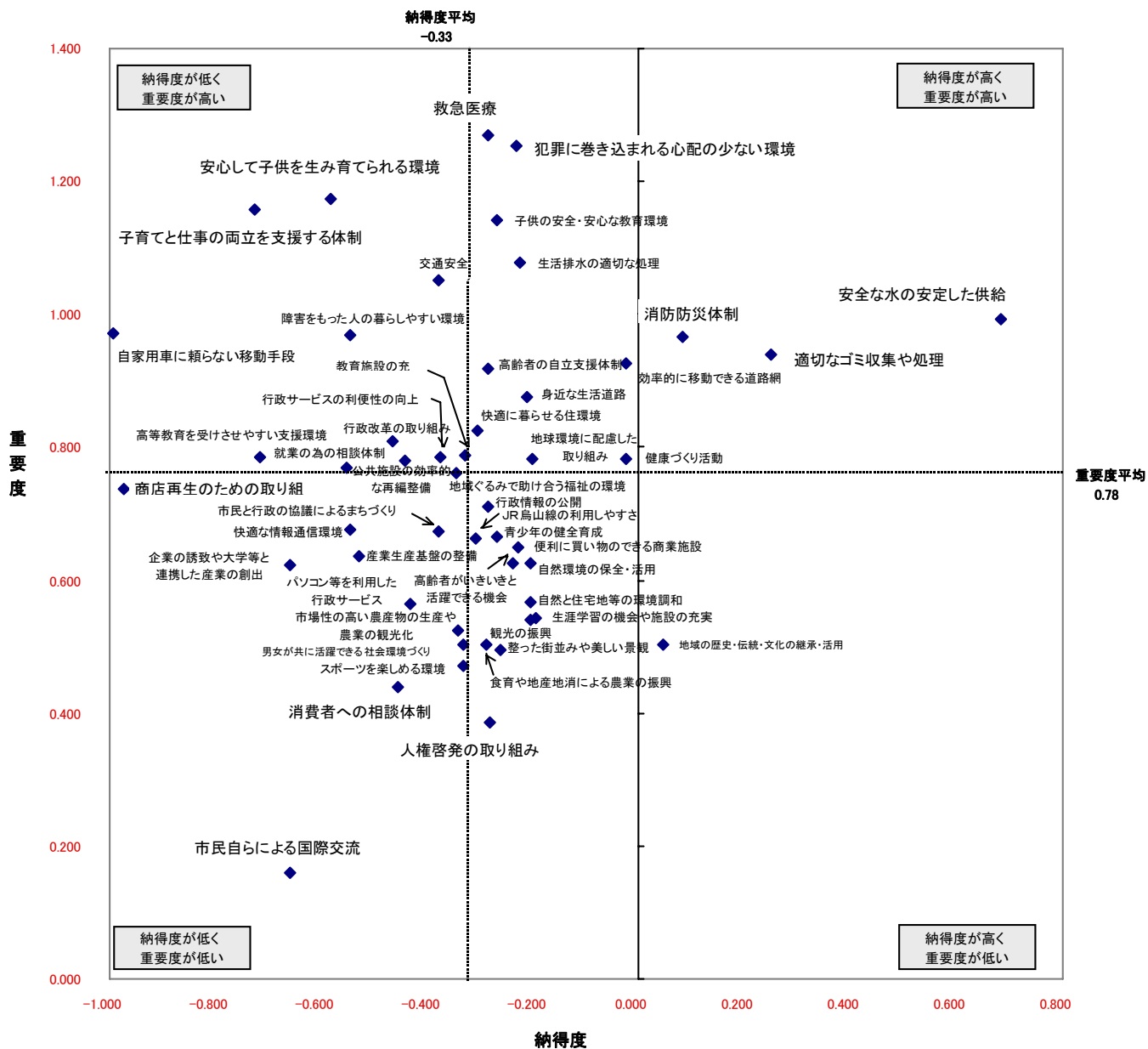
・両者の評価を大きく分けるポイントとなっている施策・事業は“快適に暮らせる住環境”
“交通安全” “快適な情報通信環境” “企業の誘致や大学等と連携した産業の創出” “便利
に買い物のできる商業施設” “商店街再生のための取り組み”

※ 集計・分析について

①各施策・事業に対するこれまでの納得度と今後の重要度とを得点化し、両者の相関関係から各施策・事業の位置づけ・優先度等を把握。

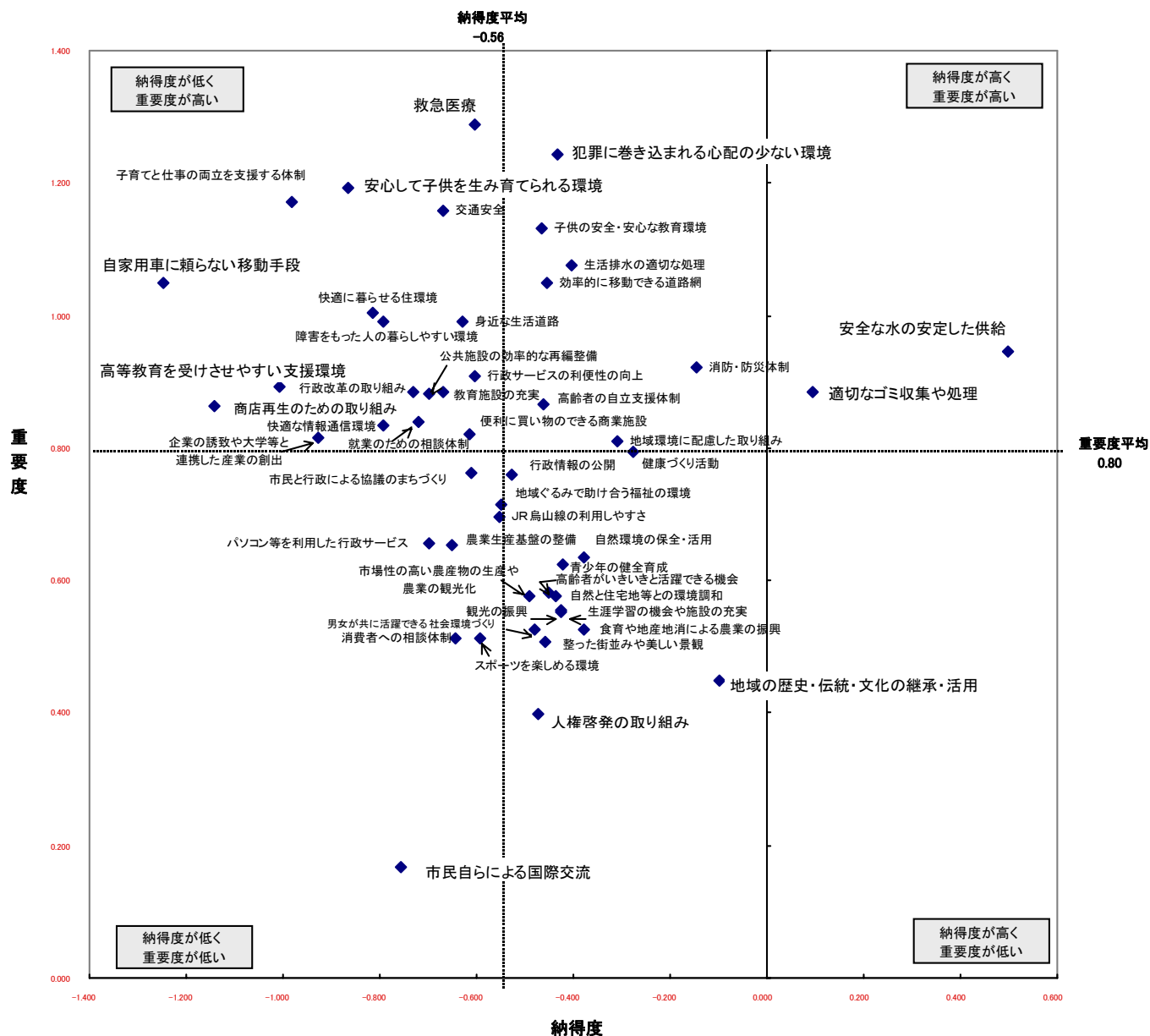
②得点は、十分評価：2点、まあ評価：1点、ふつう：0点、やや不十分：-1点、不十分：-2点とし、施策・事業毎の平均点を（十分評価の件数×2点+まあ評価の件数×1点+ふつうの件数×0点+やや不十分の件数×-1点+不十分の件数×-2点）÷（全体の件数-無回答の件数）として算出。

(参考) 各施策・事業の評価：“全体” 相関グラフ



※ “納得度” “重要度” の上位・下位の3項目については文字ポイント数を大きく表示

(参考) 各施策・事業の評価：“暮らしにくい” 相関グラフ



※ “納得度” “重要度” の上位・下位の3項目については文字ポイント数を大きく表示

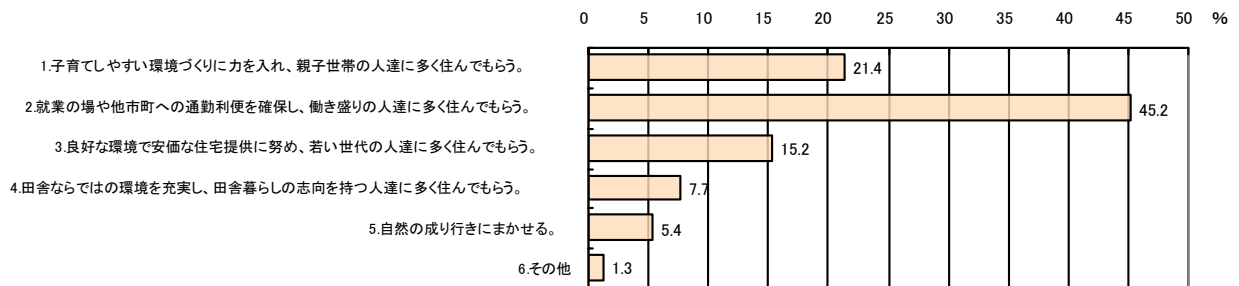
3 那須烏山市の都市・地域づくりのあり方

[人口減少の抑制策]

○ 「就業の場の確保や通勤の利便性の確保」「子育てしやすい環境づくり」が期待されている。

(結果概要)

- ・ 年齢別・地域別の全般にわたり “就業の場の確保や通勤の利便性の確保” を最も重視
- ・ 次いで “子育てしやすい環境づくり” “良好な環境の安価な住宅提供” の順に期待
- ・ 40・50代において高い “就業の場の確保や通勤の利便性の確保” への期待、20・30代において高い “子育てしやすい環境づくり” への期待
- ・ 那珂川沿川ゾーン・八溝森林保全ゾーンにおいて高い “就業の場の確保や通勤の利便性の確保” への期待



	1位	割合 (%)	2位	割合 (%)	3位	割合 (%)	
総数 (市民意向)	2. 就業の場や他市町への通勤利便を確保	45.2	1. 子育てしやすい環境づくりに力を入れ	21.4	3. 良好な環境で安価な住宅提供に努め、	15.2	
年齢別	10代後半	2. 就業の場や他市町への通勤利便を確保	40.3	1. 子育てしやすい環境づくりに力を入れ	20.8	3. 良好な環境で安価な住宅提供に努め、	14.5
	20代	2. 就業の場や他市町への通勤利便を確保	39.0	1. 子育てしやすい環境づくりに力を入れ	26.8	3. 良好な環境で安価な住宅提供に努め、	21.1
	30代	2. 就業の場や他市町への通勤利便を確保	36.2	1. 子育てしやすい環境づくりに力を入れ	32.5	3. 良好な環境で安価な住宅提供に努め、	16.0
	40代	2. 就業の場や他市町への通勤利便を確保	50.0	1. 子育てしやすい環境づくりに力を入れ	17.8	3. 良好な環境で安価な住宅提供に努め、	14.4
	50代	2. 就業の場や他市町への通勤利便を確保	54.7	1. 子育てしやすい環境づくりに力を入れ	13.8	3. 良好な環境で安価な住宅提供に努め、	12.3
	60代	2. 就業の場や他市町への通勤利便を確保	49.8	1. 子育てしやすい環境づくりに力を入れ	18.5	3. 良好な環境で安価な住宅提供に努め、	16.6
	70代以上	2. 就業の場や他市町への通勤利便を確保	39.1	1. 子育てしやすい環境づくりに力を入れ	25.2	3. 良好な環境で安価な住宅提供に努め、	13.9
地域別	那珂川沿川	2. 就業の場や他市町への通勤利便を確保	49.8	1. 子育てしやすい環境づくりに力を入れ	18.5	3. 良好な環境で安価な住宅提供に努め、	17.4
	丘陵親緑	2. 就業の場や他市町への通勤利便を確保	45.1	1. 子育てしやすい環境づくりに力を入れ	25.4	3. 良好な環境で安価な住宅提供に努め、	10.9
	丘陵共生	2. 就業の場や他市町への通勤利便を確保	39.6	1. 子育てしやすい環境づくりに力を入れ	23.3	3. 良好な環境で安価な住宅提供に努め、	14.1
	八溝森林保全	2. 就業の場や他市町への通勤利便を確保	49.6	1. 子育てしやすい環境づくりに力を入れ 3. 良好な環境で安価な住宅提供に努め、	19.1	-	-

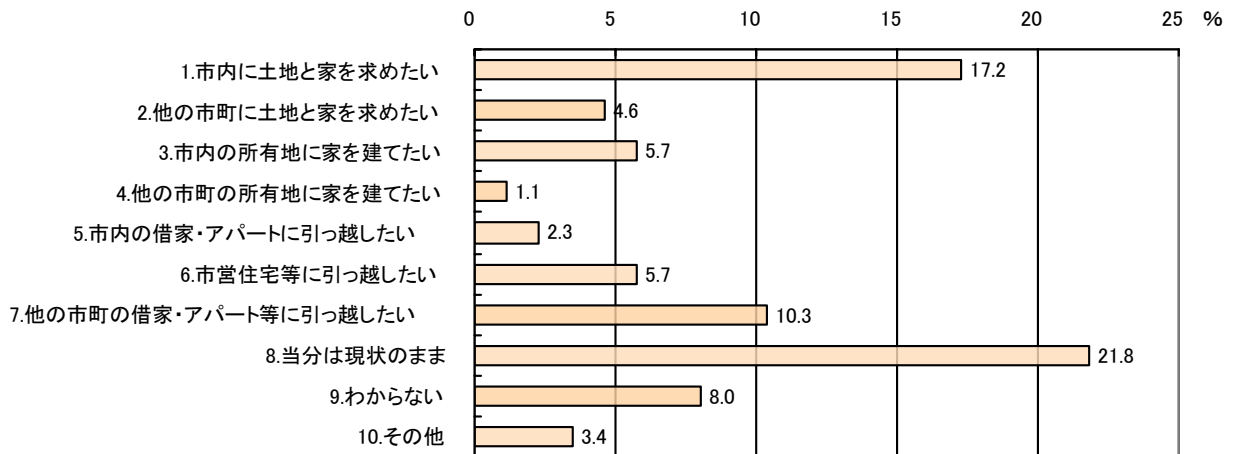
[定住意向]

○ 持ち家以外の回答者の内、約 5 割の人が那須烏山市に住み続けると回答している。

(結果概要)

- ・ 持ち家以外の回答者の内約 2 割が市内に家を持つことを希望：市民意向調査
- ・ 中学生においては約 4 割が移転の意向：中学生アンケート

【市民意向調査より】



【中学生アンケートより】

